石川県支部だより

石川　勲

石川県透析連絡協議会の活動については2010年の支部便りで一度報告しており，今回はそれ以降の活動について振り返ってみたい．石川県透析連絡協議会は2007年に透析に関わる医師を会員として構成されたが，現在では医師以外に，看護師，臨床工学技士も非会員として参加し運営されている．参加施設は41施設で，主な活動内容は年1回開催される石川県透析連絡協議会総会とそれに続く講演会，同じく年1回行われる災害時情報連絡ネットワークの情報伝達訓練および反省会である．

1　災害対策

災害対策として以下の5点について報告する．

1-1　石川県透析連絡協議会のホームページ

上記ホームページを2013年にリニューアルした（図1）．

1-2　「石川県透析連絡協議会災害時ネットワークマニュアル」

上記マニュアルを作成し，2011年7月に県内の全透析施設に配布した．

1-3　情報伝達訓練

石川県透析連絡協議会ではこれまで毎年9月に，県の防災総合訓練の日に合わせ，災害時における情報伝達の訓練を実施してきた．参加施設数は，2011年29施設，2012年32施設，2013年36施設と，防災意識の向上とともに増加傾向にあり，各施設のご理解とご協力に感謝している．

災害時の情報伝達の訓練は，電話・ファックス・E-mailの他，実際に災害用伝言ダイアル「171」を使って，石川県透析連絡協議会と会員，各透析施設と患者の間で情報伝達の訓練を行っている．年1回ではあるが，災害で通信が困難になっても落ち着いて災害用伝言ダイアル「171」が使えるように，また使用方法を忘れないためにも訓練が必要と感じている．

なおこの訓練の反省会では，各施設に問題点を提起してもらい，改善に努めている．その中のいくつかを

図1　石川県透析連絡協議会ホームページ画面

石川県透析連絡協議会会長

抜粋してみる．

「171」のガイダンスについては，①わかりにくい，長すぎる，聞きにくいの他，②スキップする操作法（慣れればガイダンスをすべて聞く必要はない）が理解されていない，③患者が施設からのお知らせを聞く訓練で誤って録音してしまう，④訓練ではメッセージが6時間で消去されるため聞けない人が出た，などの問題点をはじめ，⑤普段から災害に備え患者と訓練しておかないといざという時に対応できない，⑥患者に災害用伝言ダイアル「171」の存在を知らせる意味も兼ねて定期的に訓練を実施する必要がある，などの反省や意見があった．

1-4　東日本大震災時支援活動の教訓

東日本大震災時の支援活動で，石川県透析連絡協議会が経験した教訓を報告したい．

災害時における透析の支援には，能登半島地震時のように透析施設自体が被災した場合や，ライフラインの問題で透析が不能となった場合のように，患者の命を救うための支援と，もう一つは東日本大震災・福島原発事故発生後のように，被災1週間を超え，仮の施設でなんとか透析はできているが，これまでの透析施設や住宅が放射線物質で汚染され，避難のために他の施設（遠方の施設）に移る場合の支援があることを実感した．

協議会は，2011年3月17日（東日本地震発生6日後）に石川県と協力し支援活動を開始した．3月18日，福島県の医師から，患者32名，18家族の避難支援をお願いしたいと連絡があった．そこで当連絡協議会では日ごろの訓練に沿って，災害時ネットワークから石川県内の6施設を選び，各施設で患者10, 5, 5, 5, 5, 2名を受け入れると直ちに決定し，迎えのバスに同乗する看護師を手配した．その一方で，石川県健康福祉部には県営住宅や，福島へ迎に行くバスの手配などを依頼した．しかし，避難場所が石川県では遠方過ぎる，県営住宅には暖房設備がないなど，いくつかの理由によって，32名の避難透析希望者が最終的にはゼロとなり，結局支援はできなかった．

能登半島地震の時は，命を救うための透析支援で大部分が入院透析であった．そのため住宅の確保，食事の用意といった今回のような問題はほとんどなかったが，東日本大震災の場合は遠方からの避難透析の支援であったので，外来通院患者に対する多岐にわたる支援の難しさを痛感した．すなわち，今回のような事例で患者の希望に添うためには，行政の手厚いサポートがなにより必要で，我々医療者だけでは到底困難であると強く感じた．evacuationのための透析支援（後方支援）には，日常生活の支援も含めて広い支援が必要である．

1-5　最近の活動

東日本大震災の時を除き，ここ3年間幸い訓練以外に石川県災害時ネットワークが動いたことはない．

2014年3月15日に第8回石川県透析連絡協議会総会が開催された．今回は県の補助事業によってMCA無線が配置されたため，県の担当者も参加し業者からMCA無線について具体的に説明を受けた．現在46施設（一部重複）はMCA無線の配置が完了している．

2　インフルエンザ対策

新型が季節インフルエンザになったが，幸い新たな鳥インフルエンザも現在出現していないので，油断せず，これまでどおり対策に万全を尽くしたい．

3　講演会

ここ3年間で開催された総会や反省会後の講演会では，次のような演題で，勉強の機会を得た．

①　2011年第5回総会

医療法人明楽会くま腎クリニック院長の隈博政先生に「透析室における新型インフルエンザ対策およびHIV感染患者透析医療ガイドライン」について講演していただいた．

②　2012年第6回総会

まず金沢大学理工研究域自然システム学系地球学コース準教授の平松良浩先生に「北陸地方の地震危険度」という題で，次に日本透析医会会長で増子クリニック昴院長の山﨑親雄先生に「透析医療と診療報酬」についてお話しをいただいた．

③　2013年第7回総会

東京大学医科学研究所先端医療社会コミュニケーション社会連携研究部特任教授の上昌広先生に「東日本大震災後の透析医療が抱えた問題」という題でとても参考になるお話をしていただいた．

④　2014年第8回総会

この年は診療報酬改定にあたり，社会医療法人名古屋記念財団理事長の太田圭洋先生に「透析医療と診療報酬」について，また武蔵野赤十字病院腎臓内科の安藤亮一先生には「透析施設における感染対策～アウトブレークをいかにして防ぐか～」について大変有用なお話しをしていただいた．

災害訓練の反省会の席では，2011年度は，仙台社会保険病院腎疾患臨床研究センター医長の木村朋由先生に「東日本大震災と透析医療～被災地からの報告～」を，2012年度は，後藤泌尿器科皮膚科副院長の後藤康樹先生に「透析医療における東日本大震災（津波の被災）時の活動報告」について，2013年度には，日本透析医会災害対策委員の赤塚クリニック院長赤塚東司雄先生に「透析医療と災害対策～東日本大震災を踏まえて」という題で貴重な体験談も交え話していただいた．

4 今後の活動

① 2014年9月初旬には，例年のように情報伝達訓練を行う．電話，ファックス，E-mailを用いて事務局と会員，スタッフと透析施設，患者と透析施設の連絡網の確認と，伝言ダイアルを用いての訓練に加え，今回は新たな試みとしてMCA無線の使用訓練も計画している．

② 災害時ネットワークマニュアルの改定を行う．

③ 自立不能，通院困難患者に対する対策として，県内での受け入れ体制について現状を把握し，透析連絡協議会として何かできることはないか検討したい．